

最優秀賞  
多良木小学校5年  
岩奥 礼奈さん

編集・発行  
熊日多良木販売センター  
(代)小出 堅太郎  
小出 忠紹 石田 敏郎  
岩崎 稔 尾前 竜二  
球磨郡多良木町大字多良木356-1  
TEL 42-3355  
FAX 49-1726  
<http://www.taragi.com/>



「いっしょに」

12月6日、多良木町青少年育成会が主催する「こどもフェスタ」を、「科学と最新技術」というテーマのもと「サイテック祭」に形づくって開催も、今年で4回目となりました。毎年参加したく、球磨工業高校の全国連覇を狙うマイコンカエと全国5位入賞したロボットの大会を兼ねた大会を終えるのを待っての日程となるため、特に今年は市房山から雪風が吹き降ろす冬日となりました。しかし、会場内は特別な熱気に包まれ、昨年以上の賑わいにスタッフも大変喜びました。昨年からの試みでした、企業や大学の参画も、今年はソラエラカエ工業大会優勝の東海大学に加え、九州工業大学と北九州市立大学からの協力を得ることができました。さらに、九州技術教育専門学校の素晴らしい技術披露も実現でき、ロボット産業ではトップレベルの日本を、少しでも身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

多良木高校、南陵高校も年々工夫を凝らした内容に、来場した方々は笑顔いっぱいでした。多良木中学生を中心に、町内小中学校理科担当の先生と保護者で構成されたコナエ工は、毎年大人気の様子です。ここでは、夢になつてつくろふことを体験させてくれる絶好の場であること間違いなし！中学生が、年下の子ども達に指導する貴重な経験から、自己充実感を胸いっぱいもちることが出来ます。高度な技術が確立している日本だけに、現在は完成度の高いおもちゃでしか遊んだことのない子ども達ばかりです。また、昔前のアニメの世界が徐々に現実化している中、それが作り出されていく過程を全く知らない子どもが、当然のように便利な生活を送っていますが、孤食の時代だからこそ技術開発や研究が盛んだった背景に、今の世代は次に何を求めていけばよいか迷っているように思われます。もう一度、人の頭脳や感覚を素直に表現できることの喜び、どんなにチャチなことでも初めから作り上げるの大変さや完成時の喜びを子ども達にはほとんど体験できる場を提供し続けていきたいと思います。青少年の大きな将来に、ほんの僅かですが力添えることが出来るならば、次世代育成する親世代として、惜しみなく投資していきたいものです。

サイテック祭実行委員長  
横山 和美



北九州市立大学国際環境工学部 山本郁夫研究室のデモンストレーション。上：鯛そっくりの魚型ロボット。右：円盤型無人飛行ロボット。



わかき会による、カルメ焼きコーナー

「今日一番の出来と褒められて、うれしかったです。サクサクして、とても甘かったです」多良木中2年 善莉依菜さん



松下会長から表彰状を受け取る、多良木小5年 岩奥礼奈さん

「この絵は、科学と人と地球が、皆繋がっているのをイメージして描きました。(最優秀賞を)受賞して、うれしかったです」



ソーラーバルーンを揚げる子供達



多良木高校による、「手作りラジオ」

多良木高校では、黒色のビニールを繋ぎ合せて作った「ソーラーバルーン」を、空に飛ばしました。そして、工具を用いての「ラジオ」作りを体験しました。黒肥地小3年の黒木茜さんは「バルーンが高く飛んで、楽しかった」と話していました。また、多良木高校2年生の松本穂都美さんは「大学や専門学校、地元の人も来てもらい、地域活性化に繋がっていると感じました。」



多良木幼稚園のパザールコーナー。その一角にて、「空気砲」や「釣り」体験ができました。



サイテック祭用ポスターの優秀作品



「ロボソヴァ」のダンスショー  
癒し系ロボット「パロ」と一緒



北九州工業大学工学部の本田崇研究室では、水槽をコイル状にしたものに、電流を流して磁界を作り、磁石入りの「魚ロボット」を磁力で泳がせることが体験できました。「理科離れを食い止めるのに、少しでも貢献できれば」と本田教授。黒肥地小2年生の佐々木健晴君は「尾が動いて、泳ぐところが、おもしろかったです」と感想を話してくれました。

磁力で泳ぐ魚ロボットの体験



「今回で4回目の参加となりますが、ここに来ると子供達に近くで見てもらえるので、反応がよくわかる所が良いですね。参加団体も年々グレードアップしていて、私達も勉強になります」とロボスクエアの宮本志保さんも楽しみにされていた様子でした。また、多良木小2年生の中神健一君は「色々なロボットがあって、とても良かったです」と満足そうでした。



青年団による「バター」作り体験

多良木小5年生の多武伶真君は「甘くて美味しいバターができました。家に帰ってもやってみよう」と満足そうでした。多良木町青年団団長の林田貴浩さんは「簡単にできるので、子供達がたくさん来てくれて、大盛況でした」と手応えを感じておられました。



ボールをコーナーに運んでみよう!!



明暗をセンサーで判別して2輪走行する「NEXT走行体」を操り、先月18日の全国大会で見事準優勝した九州技術教育専門学校のロボコン部。部員の椎葉誠也さん(多良木)は「将来はこの技術を活かした仕事に就きたい」と夢を話してくれました。



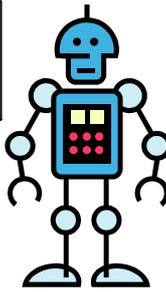
南校高校による、左:フェルトボール、下:人工イクラ体験



人工イクラづくり  
フルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムに今回は蛍光塗料を混ぜて作りました。

「初めて参加したけど、普段見掛けている物で(羊毛がフェルトボールに)こんな物が出来るのだとビックリした。」  
多良木小6年 尾前 麗奈さん

南校高校2年 宮野 遥奈さん  
「初めての参加で戸惑いもあったけど、小中学生と交流ができて、充実した一日を過ごすことができました。」



「小学生に教えるのに、まず目線と同じレベルにして、説明する事が分かり易いように工夫したら、伝わりやすくなった。」  
多良木中3年 山口詩之さん



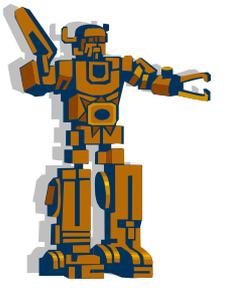
空飛ぶ種子の模型づくり

「今まで参加してたけど、今年から教える事になり難しかったけど、分からない所は手伝ってあげて、分かりそうな所は説明して自分で作れるように指導しました。」  
多良木中1年 桑原 猛君



ウインクマジックづくりをする子ども

小・中学校コーナー



楽しそうにロボット操作球磨工業生



ボクシングロボットで遊ぶ子供達

マイコンカーラリー2009全国大会優勝マシン

球磨工業高校2年(機械科) 猪原 拓馬さん  
「工業高校に進学するきっかけになったのが、中学生の時に、このマイコンカーラリーを体験したから。小中学生の将来の進路を考える際に参考になってもらえればうれしいです。」

「グローバル・グリーン・チャレンジ」は、オーストラリアで3000kmを走破してタイムを競う世界最大級のソーラーカーレースです。「Tokai Challenger」が参戦し平均時速100kmで走行し29時間49分の新記録で見事優勝しました。今回は、残念ながら現物の展示、走行はできませんでしたが、ビデオやパネルの展示となりました。



クルクル回るシャボン玉づくり

東海大学コーナー



球磨工業高校の手製ロボット



ロボットとかが大好きで、リモコンで操作するのが楽しかった。  
久米小3年 平田 真人君



マイコンカー